



平成 29 年度総会及び第 1 回研修会開催報告

日本貿易振興機構アジア経済研究所にて、平成 29 年度総会及び第 1 回研修会を開催しました。ネットワーク協議会加盟館 25 館のうち 15 館(委任状 10 館)、22 名の参加を得て、総会における議事は全て承認されました。

研修会では、アジア経済研究所開発研究センターの久保 公二氏によるミャンマーの街ムセについてのご講演、日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館の見学など、非常に有意義な研修会となりました。



日本貿易振興機構アジア研究所

日時 平成 29 年 7 月 11 日(火)
13 時 00 分～14 時 00 分:総会
14 時 30 分～17 時 00 分:第 1 回研修会
会場 日本貿易振興機構アジア経済研究所



齊藤誠一 会長



総会

- 1 開会
(1)会長挨拶
- 2 議事
(1)平成 29 年度役員(案)について
(2)平成 28 年度事業報告について
(3)平成 28 年度会計決算報告について
(4)平成 29 年度事業計画(案)について
(5)平成 29 年度会計予算(案)について
(6)その他
- 3 連絡事項
・平成 29 年度会費の納入について
・加盟館調査について
- 4 閉会

平成 29 年度の役員は次のとおりです。

理事 会長 齊藤 誠一 (千葉経済大学総合図書館)
副会長 幸島 隆夫 (千葉市稲毛図書館)
吉野 知義 (神田外語大学附属図書館)
角田 晴夫 (敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター)
奈良 伸一郎 (千葉県立中央図書館)
庄司 三千子 (千葉大学附属図書館)
竹田 和彦 (放送大学附属図書館)
植竹 立人 (日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館)
南波 省吾 (増田学園図書館)
監査 松本 伸一 (千葉市議会図書室)
遠藤 悟 (千葉市生涯学習センター)
事務局 千葉市中央図書館

千葉市図書館情報ネットワーク協議会 加盟館一覧(平成 29 年度)

No.	加盟館(室)名	No.	加盟館(室)名
1	量子科学技術研究開発機構本部図書館	14	千葉市若葉図書館
2	神田外語大学附属図書館	15	千葉市緑図書館
3	敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター	16	千葉市美浜図書館
4	淑徳大学附属図書館千葉図書館	17	千葉大学附属図書館
5	千葉経済大学総合図書館	18	千葉明德短期大学図書館
6	千葉県立中央図書館	19	東京情報大学情報サービスセンター
7	千葉市議会図書室	20	放送大学附属図書館
8	千葉市教育センター図書資料室	21	日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館
9	千葉市美術館美術図書室	22	植草学園大学・植草学園短期大学図書館
10	千葉市中央図書館	23	千葉市生涯学習センター調査・資料室
11	千葉市みやこ図書館	24	千葉県立保健医療大学図書館
12	千葉市花見川図書館	25	増田学園図書館
13	千葉市稲毛図書館		

研修会報告

「講演会『ミャンマーの辺境の商都ムセ見聞録』を聞いて」

日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館

山下 恵理

近年、ヨーロッパへの難民の流入が大きくクローズアップされており、国境を越えて移動する人々の問題を耳にしない日はないほどである。今後、国境を越えた人の移動/交流は、ますます多くの関心を呼ぶことが予想される。

アジア経済研究所ではこうした現状を踏まえ、図書館の豊富な関連コレクションの中から 400 冊を選び、資料展「グローバルな人の移動を読み解く」(7月3日～10月30日)および講演会「ミャンマーの辺境の商都ムセ見聞録」を開催した。講演会は、千葉市図書館情報ネットワーク協議会からの聴講を含む 45 名が出席する盛会となった。

街を流れる「ヒト、モノ、カネ」

講演会では、越境する人々の事例として、ミャンマーの商都ムセに焦点を当て中国国境の街を流れるヒト、モノ、カネについて解説が行われた。ムセは、ミャンマーの物流ハブである大都市マンダレーから、急峻な山並みを貫く 460 キロの街道を経た辺境の地である。中国雲南省につながるこの悪路は、欧米による経済制裁解除の後であっても、衰えることなく、ミャンマーと中国を結ぶ大動脈であり続けている。なぜ、ヒト、モノ、カネはこの辺境を流れるのか。

講師を務めた久保公二^{くほこうじ} 研究員(アジア経済研究所開発研究センター)は、ミャンマーの経済を専門とし、同国農業灌漑省に客員研

究員としてヤンゴンに赴任(2006-2008 年)している。本講演では、その豊富な現地経験と知見をもってムセの最新情報を伝えた。



アジア経済研究所開発研究センター
久保公二氏

民間の農作物輸出に欠かせない交易ポイント

久保は、ムセ繁栄の第一の要因について地理的な条件を指摘

している。ミャンマー最大の貿易相手国は中国だが、ムセは中国瑞麗(姐告)につながる国道 3 号線に位置する。およそ 2000 キロにわたる長い国境を有する中国・ミャンマー間は 12 の公式ゲートでつながれているが、とりわけミャンマーの主要都市から直接陸路を通した輸出を行うことが出来るムセは、民間の農作物輸出に欠かせない交易ポイントとなっている。

ムセと最大の商都マンダレーを結ぶ国道 3 号線は、第二次世界大戦中の 1938 年に「援蒋ルート」として蒋介石率いる中国国民党の支援を目的に整備された。独立以降ビルマ式社会主義の下で鎖国主義的な政策を進めたミャンマーでは、中国との貿易は長らく停滞し、同ルートも活用される機会に恵まれなかった。

しかし 1988 年に対外開放政策に転換すると、中国との「国境貿易協定」が締結され、国境貿易の全面開放を受けて両国の貿易額は大幅に増加した。大部分の国境地域は少数民族が支配する中、ミャンマー政府が直接管理できるようになった国道 3 号線は、1998 年にアジア・ワールドによって BOT(建設・運営・移転)方式で拡幅舗装され、両国の国境貿易ゲートの中では圧倒的なプレゼンスを得るに至った。



通関の効率化／決済の簡便化

第二の要因として制度的な条件が整っていることがあげられた。ミャンマー政府は国境貿易においてさまざまな特例措置を設け、通関の効率化(簡易パスポートの発効)、決済の簡便化(現金／外国口座での決済等)を行っている。その機能がいかんなく発揮されているのが、ムセ郊外にある通称「105 マイル」と呼ばれるチェックポイントである。105 マイル貿易ゾーンはミャンマー政府により指定された国境貿易区で、国境貿易局、税関、歳入局、警察、入国管理局、銀行の 6 つの行政機関が一元化されワンストップサービスが提供されている。



緩やかな国境管理が物流の集積地化を促進

このように道路・制度・施設の三拍子がそろったムセは、ミャンマー有数の大規模な商業エリアとなり、物流の集積地となった。ムセの国境貿易地区では、ミャンマーの仲買人が中国人バイヤーとミャンマー生産者を仲介することで、「自生的ビジネスマッチング」が行われている。こうした流動的な貿易のありかたもムセの一つの特徴である。久保は、中国とミャンマーの貿易統計の差から、両国間の輸出入に「グレーゾーン」があること

を指摘し、緩やかな国境管理がムセをミャンマーの物流集積地足らしめていると述べた。



国家の線引きが追い付かないほどにヒトとモノが行き交う地域

ミャンマーと中国との経済統合の結節点として独自の発展を遂げてきたムセの現状は、グローバル化の流れを色濃く反映した例である。近年アジアでは、より良い暮らしや活発な商取引のために越境する「移民」を中心としたヒトやモノの移動が盛んに行われており、なかでもミャンマーは、バングラデシュ、インド、中国、ラオス、タイと国境を接する、グローバルな人の移動の事例を見るうえで看過することが出来ない国家であるといえよう。

ムセ地域では、外国人が厳しく制限され、その情報を得ることが出来るのは極めてまれである。本講演は、国家の線引きが追い付かないほどにヒトとモノが行き交う地域の現状を知り、理解を促進する貴重な機会となった。

アジア経済研究所図書館では、地域に密着した知識を収集・蓄積し、話題性の高いピックについて頻繁に関連コレクションの資料展を行っている。ぜひとも足を運んで通常では知ることでできない世界の実態をより身近に感じてほしい。

図書館見学

「日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館」



1/日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館の入り口 2/図書館内の企画展示「グローバルな人の移動を読み解くーアジア経済研究所図書館の所蔵資料からー」。グローバルな人の移動を多面的な姿を浮き彫りにする資料が並んでいる。10月30日まで開催 3/企画展示では、学生も興味を持ちやすくするため、写真なども提示している 4/講演会講師久保公二氏の著作の展示 5.6/おすすめの図書には、本の紹介コメントを添える工夫がされている 7/図書館の中心部。吹抜けになっていて開放感がある 8/アジアを中心にさまざまな地域の資料がそろっている 9/窓際の座席は、眺めがよく快適 10/閲覧席。各フロアにゆったりとした座席が用意されている 11/雑誌の書架 12/可動式書架



日本貿易振興機構 アジア経済研究所図書館 データ

所在地:千葉市美浜区若葉 3-2-2

TEL:043-299-9706

FAX:043-299-9734

開館日時:月~金、第1・3土 10:00-18:00

休館日:第2・4・5土曜日・日曜・祝日・毎月最終日、年末年始

利用対象:どなたでもご利用になれます。小学生以下は保護者同伴。

その他:【閲覧】可:小学生以下は保護者同伴、入館票の記入

【貸出】賛助会員は可

【複写】セルフ 10円、スタッフ 30円、カラ- 80円

【座席数】100席

日本貿易振興機構

アジア経済研究所図書館 HP:

<http://www.ide.go.jp/Japanese/Library/>



千葉市図書館情報ネットワーク協議会は、千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成6年1月に設立。このNetwork通信は、加盟館の情報交流並びに協議会の活動状況を加盟館利用者等にお知らせすることを目的とし、平成10年10月から発行している。

Network通信 No.52 2017年10月11日発行

千葉市図書館情報ネットワーク協議会事務局：
〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7 千葉市中央図書館内
TEL 043-287-3980 FAX 043-287-4074
千葉市図書館情報ネットワーク協議会 HP:<http://www.ccal.jp/>

